

目的 新人類とよばれる若者の食事マナーの乱れについてよく指摘されている。この事実関係を明らかにすることを目的として調査した結果2, 3の知見を得たので報告する。

方法 調査対象：女子短大生542名。調査期日：1989年7月。調査方法：24項目について質問紙調査法でおこなった。

結果 非常に大切であるは「食後に歯をみがく」, 「食前に手を洗う」, 「ひじをついて食べない」などの健康管理に関する項目に高い意識を示した。一方, 大切ではないは「テレビを見ながら食べない」, 「みんなが揃ってから食べはじめる」, 「食事中に立たない」など倫理性の項目の順であった。「大切である」と「他人にも守ってほしい」項目は一致の傾向を示した。

人間生活に欠かせない普遍的な項目は「大切である」「守ってほしい」が伝統的家父長制度のもとで効力のあったマナーは軽視の傾向にあった。